誇りに思える町づくり

明けましておめでとうございます

葛巻町長　中村哲雄

交流人口の増大に期待

昨年も大変な年でした。刻々と進行している地球温暖化、民族間の対立や紛争。国内では大企業の相次ぐ不祥事、食品への不信感などにより、景気の低迷は一層深刻化しています。回復の兆しが見えない経済情勢の中、雇用不安の拡大、新卒者の就職難など、混迷を極める状況にあります。

そんな中、サッカーワールドカップ日韓共同開催は、一服の清涼剤であったように感じます。岩手県では、待望の新幹線が八戸まで開業し、本町の交流人口の増大に期待が寄せられるところです。

本町では、七月の台風、八月の豪雨による災害は被害甚大で、多くの町民の皆さまに不安とご不便をおかけしました。現在、国の災害査定が終了し、災害復旧事業と災害関連事業による復旧整備費の総額は約二十五億円となる見通しです。

実践活動で本町を情報発信

昨年は、本町の各種実践活動が実を結んだ年でもありました。消防団第六分団の全国消防操法大会準優勝、町畜産開発公社の岩手日報文化賞受賞、高家領水車母さんの会が日本農林漁業振興会長賞を受賞、ひとねっと倶楽部の手づくり映像が「ふるさとCM大賞」の銀賞を獲得、全国俳句コンテストの開催などでは本町の情報発信をしながら、文化の薫る町づくりに大きく貢献したものと思います。

現時点では自立の道を選択

町では今、合併の是非が最も重要な問題です。昨年末までに座談会や出前講座など十六会場で説明や意見交換をし、住民アンケートも実施しました。その結果、現時点では「自立の道」を選択することが、町民の大方のご意見と受けとめています。

合併の是非については、町民の意向を踏まえながら、町議会と協議し、合併特例法の期限である平成十七年三月を見据え、本年三月末までに最終的な判断をしたいと考えています。

多面的資源を最大限に活用

さて、新しい年は、老人保健施設「アットホームくずまき」のオープン、くずまき高原牧場の畜産バイオガスプラントの稼働、バターチーズ工房や三百人収容可能な体験学習館のオープン、上外川ではグリーンパワーくずまき風力発電所が電力供給を開始し、税収増にも期待が寄せられています。

このように本町の多面的資源と機能、人材を最大限に生かした町づくりは着実に伸展しており、産業や文化、人材が光を放ち、県内外から多くの人々が訪れる町になってきています。

ハードからソフトの時代へ

現在、十年後の町を見据えた基本構想と基本計画の策定に着手しています。酪農、農業、林業、そして商工業の振興を図ることを基本として、幸せを実感できる高原文化の町を目指すものです。

町づくりの視点として、「健康」「環境」「交流」を掲げ、幸せ実感のしくみづくりでは「協働の町づくり」としています。これはハードからソフトへという時代の要請を受け、道路や施設の整備など行政主体から町民が参画して「町づくりの喜び」を共有するシステムに変えていこうというものです。物の豊かさから心の豊かさへの転換とも言えます。

町民の皆さんが、「自ら町づくりに参画しながら幸せを実感し、誇りに思える町」を目指して奮闘して参ります。皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、年頭のごあいさつとします。